

# 幼稚園教諭免許状取得のための音楽関係 教科目に関する基礎的研究 (2)

短大保育科における音楽教育について

浅見 英夫・新井 規夫

Basic Study of the Musical Subjects toward the Acquisition of License  
Entitling Those Who Offer Their Services as Kindergartner (2)  
The Musical Education at Kindergardener Couse of Junior Colleges

Hideo ASAMI, Norio ARAI

This is a basic study pertaining of the what the musical education should be essential in junior colleges for kindergarten teacher training.

The reexamination for understanding the musical education in substance is formed by three provinces. Conscious research, education of in instrumental music, and the principle of education.

The consequence of the questionnaire was collected in 49 junior colleges where they have a training school for kindergarten teacher.

## I 研究目的

本研究は、短期大学保育科、幼児教育科などの保育者養成課程における音楽教育のあり方について、各大学における音楽教育に関する資料を得るための基礎的研究である。前回の結果は、現状を把握するにとどめたため、今回は調査内容を細分化した。これによりよき指導の方向をみつけたい。

## II 研究方法

### 1. 調査校

保育者養成課程を置く短大は166校である。我々はこれら166校に対し調査用紙を郵送し、回答を求めた。その回収数は、49校で、回収率29.5%であった。

### 2. 調査項目

調査項目は12項からなり、前回より内容を細分化し、1. 器楽教育に関する調査、2. 音楽担当者に対する意識調査、3. 保育内容に関する調査の3領域からなっている。

### 3. 調査期日

昭和47年3月上旬に調査用紙を発送し、昭和47年4月までに回収した。

## III 調査結果・結果の考察

前回の調査は調査技術の面で未熟な点もあり、結果の集計、考察上不十分な所もあった。本調査は、1. 器楽教育に関する調査、2. 音楽担当者に対する意識調査、3. 保育内容に関する調査の3領域に分け調査を行った。これらの調査の集計の結果は表I～IVに示した。

## 1. 器楽教育に関する調査

(1) 短大に入学してから器楽の練習を始める学生に対する教材の必修、選択別

各種の練習曲の中では、必修としてはバイエルが最も多く使われ42校

(85.7%)、ブルグミュラーが13校(26.5%)、ツェルニー30番が12校(24.4%)である。また、選択として

はブルグミュラーが多く使われ21校(42.8%)、ツェルニー30番が20校(40.8%)、ツェルニー100番が18校(36.7%)である。指の訓練を目的としたハノン練習曲も多くはないが、必修、選択ともに10～14校

(20.4%～28.5%)で使われている。つぎに、曲集をみると、必修では僅少しか使われていない。しかし、

選択ではソナチネアルバムが27校(55.1%)で、ソナタアルバムが24校(48.9%)、ピアノ小曲集が17校(34.6%)で使われている。選択

となると大分程度の高い曲までやっていることになる。また、保育に実際に使われるマーチ集、童謡曲集と

なると、21校(42.8%)で使われている。

(2) 器楽指導の形態

集団指導の形態をとっている短大も数校あるが、ほとんどの短大では全部個人指導の形態をとっている。したがって、多くの器楽担当教官が必要となり、前回の調査<sup>1)</sup>でもわかるように担当者1人当たり平均30人位の学生の指導にあたっている。

(3) 器楽指導の毎週、隔週の別

大体の短大では毎週行われている。

## 2. 音楽担当者に対する意識調査

(1) 短大入学時にピアノの練習をしつけている(例えばバイエル終了程度)学生の扱いについて

(i) 各人の能力に応じた楽曲を与えて練習させる。43校(87.7%)

(ii) 保育内容に関連した曲目(マーチ、童謡など)のみを与えて練習させる。9校(18.4%)

(iii) 各人の進度に応じて練習曲のみを与えて練習させる。5校(10.2%)

表I 器楽教育の教材について

|             | 教 材            | A  |      | B    |      | C  |    |
|-------------|----------------|----|------|------|------|----|----|
|             |                | 必修 | 選択必修 | 個人指導 | 集団指導 | 毎週 | 隔週 |
| 練<br>習<br>曲 | バ イ エ ル        | 42 | 3    | 39   | 0    | 4  | 1  |
|             | ブルグミュラー        | 13 | 21   | 21   | 0    | 21 | 1  |
|             | ツェルニー 100      | 7  | 18   | 16   | 0    | 17 | 1  |
|             | ツェルニー 30       | 12 | 20   | 18   | 0    | 18 | 1  |
|             | ツェルニー 40       | 6  | 10   | 9    | 1    | 9  | 2  |
|             | ツェルニー 50       | 3  | 5    | 6    | 0    | 6  | 0  |
|             | メ ト ロ ド ロ ー ズ  | 2  | 4    | 2    | 0    | 2  | 1  |
|             | ピ ア ノ A・B・C    | 1  | 5    | 0    | 0    | 0  | 0  |
|             | ラ ジ ュ リ ティ     | 0  | 4    | 1    | 0    | 1  | 0  |
| 曲<br>集      | リトルピアニスト       | 0  | 4    | 2    | 0    | 0  | 1  |
|             | ハノン(ピアノのテクニック) | 10 | 14   | 9    | 0    | 11 | 0  |
|             | ピ ア ノ 小 曲 集    | 2  | 17   | 19   | 0    | 8  | 1  |
|             | ソ ナ チ ネ アル バ ム | 8  | 27   | 17   | 1    | 17 | 1  |
| そ<br>の<br>他 | ソ ナ タ アル バ ム   | 5  | 24   | 16   | 46   | 14 | 2  |
|             | マ ー チ 集        | 21 | 10   | 15   | 3    | 14 | 4  |
|             | 童 謡 曲 集        | 21 | 10   | 12   | 2    | 13 | 2  |
|             | 自 主 編 曲 教 材    | 11 | 7    | 8    | 2    | 8  | 1  |

浅見・新井：幼稚園教諭免許状取得のための音楽関係教科目に関する基礎的研究（2）

- (iv) 進度に関係なく、同一教材を与えて練習させる。5校（10.2%）
- (v) 入学時の進度とその後の進度状況を考慮して単位を認定し、その後は指導しない。1校（2.0%）

ピアノの指導は個人差があるため、やはり、能力に応じた指導をすることしか方法がないようである。前回の調査で学生のレッスン時間は平均10～15分程度となっているが、高度の曲になった時、いかにして指導するかは難しい問題である。また、保育科短大ではどの程度までのものを指導すべきかは今後考えられなければならない。

(2) 音楽の基礎教育（ピアノ、声楽、音楽理論など）を保育内容（音楽リズムなど）の音楽（保育に直接関係ある音楽）に直接結びつけるための指導について

- (i) 指導している。36校（73.4%）
- (ii) 指導していない。13校（26.5%）
- (iii) 必要であるが実施していない。11校（22.4%）

大半の短大で指導しているが、その内容は多種多様で具体的なものをみつけたことはできなかった。

(3) 音楽の基礎教育（ピアノ、声楽、音楽理論など）を担当している教官と保育内容（音楽リズムなどを担当している教官について

- (i) 全く別人である。21校（42.8%）
- (ii) 同一人であることもある。19校（38.8%）
- (iii) 全く同一人である。9校（18.5%）

大部分の短大では全く別人によって担当されている。これはピアノ、声楽などは専門的に技術指導のみをしているためである。しかし、内容的にも時間的にも両方を担当することは無理である。ピアノ、声楽などの教官が保育内容をも担当するには専門的に違いすぎるのである。

(4) 音楽の基礎教育と保育内容との関連づけについて

- (i) 話し合いをしていない。24校（49.0%）
- (ii) 話し合いをしている。20校（40.8%）

話し合いは小人数の学生の指導にあたっている短大の教官間ではなされやすいが、前回の調査の結果にみられるようにピアノの担当者には、非常勤、兼任が多いために教官間の交流がなされにくいこともあるのではないかと考えられる。

(5) 現在、短大で行われている音楽教育（基礎教育、保育内容）について

- (i) 教育内容、時間数とも大体充分である。19校（38.8%）
- (ii) 教育内容、時間数とも不充分である。15校（30.6%）
- (iii) 教育内容は充分で時間が足りない。13校（26.5%）
- (iv) 教育内容は不充分で時間数は適切である。4校（8.2%）

教育内容、時間数とも大体充分であるという結果がでたことは意外であったが、短大というワクの中では時間的制約もあり、あまり盛りたくさんでは学生も消化できないという考えからこういう結果がでてきたのであろう。しかし、現実にはまだ不十分な点も多い。

### 3. 教職に関する専門科目、保育内容（音楽）に関する調査

前回の調査の結果、各短大から出てきた内容を大別し実際に短大で行われているものの中から回答を得た。

(1) 講義（理論）について

表Ⅱによると論議では幼児の音楽的発達、幼児の音楽教育論、音楽リズム各論はほとんど保育内容(音楽リズム)Aでなされ27校(55.1%)~33校(67.3%)である。これらの内容の科目は大體、各学年前後期に平均して行われ15(30.6%)~27校(55.1%)校であるが2年の後期にやや多く行われている。

(2) うたう(歌唱)について

表Ⅲによるとうたう(歌唱)では歌唱法が専門科目音楽Bで多く行われ39校(79.5%)であり、教材研究、指導法はA、Bともに19校(38.8%)~23校(46.9%)であり、伴奏法はBで35校(71.4%)である。また、創作もBで24校(49.0%)行われている。この中で特に歌唱法は2年の後期に多く30校(61.2%)で行われている。が、他の教科は各学年平均している。

(3) ひく(合奏)について

表Ⅲによるとひく(合奏)では簡易楽器奏法、合奏の実際はAで25校(51.0%)~27校(55.1%)で行われ、指導法はAで22校(44.7%)行われている。ともに2年の後期に多く33校(67.3%)である。

合奏法はAで多く行われているが、技術的な面から考えるとBでもう少し行われるべきである。

(4) きく(鑑賞)について

表Ⅲのきく(鑑賞)では教材研究、指導法がA、Bで行われ10校(20.4%)19校(38.8%)である。教材研究は2年後期に多く25校(51.0%)である。

(5) おどる(身体表現)について

表Ⅳによるとおどる(身体表現)では遊戯、リトミック、創作舞踊、童謡ふりつけ、指導法、マーチ演奏の実際、身体的表現、伴奏曲演奏の実際はほとんどAで行われ20校(40.8%)~27校(55.1%)であるが、マーチ演奏の実際のみはBでも18校(36.7%)行われている。これらの教科は1、2年とも後期にやや多く、9校(18.5%)~25校(51.0%)である。また、マーチ演奏の実際は器楽教育の中で個人的に行われていると考えられる。

(6) その他、総合的活動について

表Ⅳによるとその他、総合的活動では音楽的あそび(ゲーム、わらべうたなど)がAで多く30校(61.2%)行われているが、その他の舞踊劇、オペレッタミュージカル、小児体育のうち音楽的な

表Ⅱ 講義(理論)について

| 内 容                                  | (A)<br>保育内容<br>音 楽<br>リ ズ ム | (B)<br>教科に關する専門<br>科目音楽<br>(ピアノ、声楽、<br>理論) | (C)<br>一般教育文<br>人<br>科目中の<br>音 楽 | 実習の中で        |             | その科目を行なう学年    |               |               |               |
|--------------------------------------|-----------------------------|--|----------------------------------|--------------|-------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
|                                      |                             |  |                                  | 付 属 園        | 外 部 の 園     | 1 年           |               | 2 年           |               |
|                                      |                             |  |                                  |              |             | 前 期           | 後 期           | 前 期           | 後 期           |
| 幼児の音楽的発達<br>(身体的・心理的)                | 28<br>(57.1%)               | 5<br>(10.2%)                               | 2<br>(4.1%)                      | 5<br>(10.2%) | 4<br>(8.2%) | 18<br>(36.7%) | 17<br>(34.6%) | 15<br>(30.6%) | 27<br>(55.1%) |
| 幼児の音楽教育論<br>(総論的なもの幼稚園<br>指導要領などを含む) | 27<br>(55.1)                | 10<br>(20.4)                               | 2<br>(4.1)                       | 5<br>(10.2)  | 4<br>(8.2)  | 15<br>(30.6)  | 20<br>(40.8)  | 17<br>(34.6)  | 26<br>(53.0)  |
| 音楽リズム各論<br>(うたう、ひく、きく)<br>(おどる各活動内容) | 33<br>(67.3)                | 10<br>(20.4)                               | 1<br>(2.0)                       | 4<br>(8.2)   | 4<br>(8.2)  | 19<br>(38.8)  | 18<br>(36.7)  | 18<br>(36.7)  | 24<br>(49.0)  |

表Ⅲ うたう（歌唱）、ひく（合奏）、きく（鑑賞）について

| 内 容         | (A)<br>保育内容<br>音 楽<br>リズム | (B)<br>教科に關する専門<br>科目音楽<br>(ピアノ<br>声 楽<br>理 論) | (C)<br>一般教育<br>文 科<br>人 科<br>目 中<br>の 楽 音 | 実 習 の 中 で |         | その科目を行なう学年 |          |          |          |
|-------------|---------------------------|--|---|-----------|---------|------------|----------|----------|----------|
|             |                           |  |   | 付 属 園     | 外 部 の 園 | 1 年        |          | 2 年      |          |
|             |                           |  |   |           |         | 前 期        | 後 期      | 前 期      | 後 期      |
| 歌 唱 法       | 9(18.4)                   | 39(79.5)                                       | 3(6.1)                                    | 2(4.1)    | 1(2.0)  | 28(57.1)   | 22(44.9) | 21(42.8) | 30(61.2) |
| 教 材 研 究     | 22(44.9)                  | 22(44.9)                                       | 2(4.1)                                    | 4(8.2)    | 2(4.1)  | 16(32.7)   | 25(51.0) | 25(51.0) | 25(51.0) |
| 指 導 法       | 19(38.8)                  | 23(46.9)                                       | 1(2.0)                                    | 3(6.1)    | 2(4.1)  | 13(26.5)   | 24(49.0) | 24(49.0) | 23(46.9) |
| 伴 奏 法       | 12(24.5)                  | 35(71.4)                                       | 1(2.0)                                    | 2(4.1)    | 1(2.0)  | 18(36.7)   | 22(55.1) | 28(57.1) | 25(51.0) |
| 創 作 (作 曲)   | 10(20.4)                  | 24(49.0)                                       | 2(4.1)                                    | 0         | 0       | 13(26.5)   | 12(24.5) | 18(36.7) | 18(36.7) |
| 簡 易 楽 器 奏 法 | 27(55.1)                  | 13(26.5)                                       | 1(2.0)                                    | 1(2.0)    | 3(6.1)  | 13(26.5)   | 20(40.8) | 18(36.7) | 33(67.3) |
| 合 奏 の 実 際   | 25(51.0)                  | 13(26.5)                                       | 2(4.1)                                    | 2(4.1)    | 3(6.1)  | 12(24.5)   | 19(38.8) | 17(34.6) | 30(61.2) |
| 指 揮 法       | 14(28.6)                  | 13(26.5)                                       | 2(4.1)                                    | 1(2.0)    | 1(2.0)  | 9(18.5)    | 16(32.7) | 15(30.6) | 19(38.8) |
| 指 導 法       | 22(44.9)                  | 6(12.2)  | 1(2.0)                                    | 3(6.1)    | 3(6.1)  | 6(12.2)    | 18(36.7) | 18(36.7) | 21(42.8) |
| 編曲(教材研究を含む) | 14(28.6)                  | 10(20.4)                                       | 1(2.0)                                    | 1(2.0)    | 1(2.0)  | 5(10.2)    | 12(24.5) | 15(30.6) | 20(40.8) |
| 教 材 研 究     | 19(38.8)                  | 15(30.6)                                       | 2(4.1)                                    | 3(6.1)    | 2(4.1)  | 13(26.5)   | 18(36.7) | 18(36.7) | 25(51.0) |
| 指 導 法       | 13(26.5)                  | 10(20.4)                                       | 1(2.0)                                    | 3(6.1)    | 3(6.1)  | 8(16.3)    | 13(26.5) | 15(30.6) | 18(36.7) |

表Ⅳ おどる（身体表現）、その他総合的活動、保育、教育実習との関連

| 内 容  | (A)<br>保育内容<br>音 楽<br>リズム | (B)<br>教科に關する専門<br>科目音楽<br>(ピアノ<br>声 楽<br>理 論) | (C)<br>一般教育<br>文 科<br>人 科<br>目 中<br>の 楽 音 | 実 習 の 中 で |          | その科目を行なう学年 |          |          |          |
|--|---------------------------|--|---|-----------|----------|------------|----------|----------|----------|
|  |                           |  |   | 付 属 園     | 外 部 の 園  | 1 年        |          | 2 年      |          |
|  |                           |  |   |           |          | 前 期        | 後 期      | 前 期      | 後 期      |
| 遊 戯  | 25(51.0)                  | 4(8.2)   | 0   | 2(4.1)    | 2(4.1)   | 12(24.5)   | 11(22.4) | 11(22.4) | 18(36.7) |
| リ ト ミ ッ ク                                      | 25(51.0)                  | 5(10.2)  | 0   | 2(4.1)    | 4(8.2)   | 12(24.5)   | 12(24.5) | 14(28.6) | 21(42.8) |
| 創 作 舞 踊  | 20(40.8)                  | 4(8.2)   | 0   | 2(4.1)    | 2(4.1)   | 8(16.3)    | 10(20.4) | 12(24.5) | 16(32.7) |
| 童 謡 ふ り つ け                                    | 27(55.1)                  | 5(10.2)  | 0   | 3(6.1)    | 2(4.1)   | 12(24.5)   | 17(34.6) | 15(30.6) | 19(38.8) |
| 指 導 法  | 24(49.0)                  | 3(6.1)   | 0   | 4(8.2)    | 3(6.1)   | 8(16.3)    | 9(18.5)  | 13(26.5) | 15(30.6) |
| マーチ演奏の実際                                       | 22(44.9)                  | 18(36.7)                                       | 0   | 4(8.2)    | 2(4.1)   | 9(18.5)    | 12(24.5) | 24(49.0) | 25(51.0) |
| 身 体 表 現<br>伴 奏 曲 演 奏 の 実 際                     | 22(44.9)                  | 7(17.4)  | 0   | 4(8.2)    | 3(6.1)   | 8(16.3)    | 18(36.7) | 15(30.6) | 24(49.0) |
| 舞 踊 劇  | 6(12.2)                   | 0  | 0   | 1(2.0)    | 1(2.0)   | 1(2.0)     | 1(2.0)   | 1(2.0)   | 6(12.2)  |
| オ ペ レ ッ タ                                      | 4(8.2)                    | 4(8.2)   | 0   | 2(4.1)    | 2(4.1)   | 3(6.1)     | 4(8.2)   | 5(10.2)  | 8(16.3)  |
| ミ ュ ー ジ ョ ン                                    | 3(6.1)                    | 1(2.0)   | 0   | 2(4.1)    | 2(4.1)   | 2(4.1)     | 2(4.1)   | 2(4.1)   | 4(8.2)   |
| 音 楽 的 あ そ び<br>(ゲーム・わらべうた)                     | 30(61.2)                  | 5(10.2)  | 0   | 7(14.3)   | 7(14.3)  | 15(30.6)   | 15(30.6) | 18(36.7) | 27(55.1) |
| 小 児 体 育 の うち 音 楽 的<br>な も の (幼 児 体 操 等)        | 16(32.7)                  | 6(12.2)  | 0   | 5(10.2)   | 4(8.2)   | 6(12.2)    | 9(18.5)  | 9(18.5)  | 20(40.8) |
| 即 興 演 奏 の 実 際                                  | 12(24.5)                  | 8(16.3)  | 0   | 2(4.1)    | 1(2.0)   | 8(16.3)    | 9(18.5)  | 14(28.6) | 22(44.9) |
| カ リ キ ュ ラ ム 作 成 (特 に<br>音 楽 リ ズ ム と 関 連 さ せ て) | 20(40.8)                  | 4(8.2)   | 0   | 14(28.6)  | 9(18.5)  | 4(8.2)     | 14(28.6) | 19(38.8) | 22(44.9) |
| 音 楽 リ ズ ム の 実 際<br>指 導 の 経 験                   | 14(28.6)                  | 3(6.1)   | 0   | 24(49.0)  | 19(38.8) | 5(10.2)    | 19(38.8) | 20(40.8) | 25(51.0) |

もの（幼児体操など）、即興演奏の実際などはあまり行われておらず多くて8校（16.3%）である。音楽的あそびは2年後期に27校（55.1%）で行われている。

舞踊劇、オペレッタ、ミュージカルなどは高度の技術と時間を必要とするため、行われにくいと考えられる。

#### (7) 保育、教育実習との関連

表IVによると保育、教育実習との関連ではカリキュラム作成、音楽リズムの実際指導の経験はAで14校（28.6%）～20校（40.8%）で行われ、実習園でも多く行われ23校（46.9%）～43校（87.7%）である。学年は1、2年とも後期に多く14校（28.6%）～25校（51.0%）である。

## IV 結 論

今回の調査は調査校が前回の161校から166校にふえたにも拘らず、回収率は低く49校（28.9%）であった。これは前回に比して調査内容がやや細分化したためと、時期が悪かったために多くの回答が得られなかった。

1. 器楽教育は各短大とも個人差があり、教材の内容は多種多様であった。しかし、練習曲の中ではバイエルピアノ教則本が主に使用され、曲集ではソナチネアルバムが多く使用されている。

現在の音楽教育ではバイエル、ソナチネなどの教材の他に多種類のものが多くでているが、まだ、短大保育科においてはあまり使用されていない。他の教材をもっと多く使った指導や短大保育科学生用の教材が研究される必要がある。

2. 意識調査では学生の能力に応じた指導する方法がとられているが、個人差が大きいためにどのような指導が適切かは今後の問題であるし、入学以前の器楽練習がある程度なされていることが望ましいのではないかと考えられる。

音楽の基礎教育と保育内容を関連づける指導はなされてはいるが、担当教官間の話し合いが少い。より一層充実したものにするためにはもっと多くの話し合いがなされなければならない。

3. 内容を大別してみると専門科目音楽（ピアノ、声楽、理論など）と保育内容（音楽リズム）は大体バランスがとれた指導力がなされているが、各短大によって内容は多種多様である。

一般教育（音楽）ではほとんど指導がなされていないが、短大という少い時間の中ではもっと関連づけられてもよいと考えられる。

時間の配分は大体平均されているが、2年後期にやや多く集中している。特にひく（合奏）は技術的な面が多いのもう少し早い時期から行われる必要がある。

（おわりに今回の調査にあたっては宝仙学園短大の小林美実教授、真野英子助教授、鹿児島大学の島田俊秀助教授の協力をいただいた。ここに謝意を表します）。

## 引 用 文 献

- 1) 浅見英夫、新井規夫 幼稚園教諭免許状取得のための音楽教育関係科目に関する基礎的研究(1)  
東京家政大学研究紀要第12集、1～10（1972）

## 調 査 用 紙

領域〔I〕器楽教育に関する調査

浅見・新井：幼稚園教諭免許状取得のための音楽関係教科目に関する基礎的研究（2）

下記の解答欄のA例に各々の短大で実施していると思われる器楽教育の教材を掲載してあります。B列以下の各々の質問に従って解答欄に記入して下さい。

- (B)：短大に入学してから器楽の練習を始める学生に対して、貴校で課している教材を必修・選択必修別に○印をつけて下さい。
- (C)：その場合の学生の単位を認定するための最低の程度を具体的に記入して下さい。（例えば、バイエル106番など）
- (D)：貴学の器楽教育の形態は、個人指導、集団指導、個人・集団兼用の何れですか。該当する欄に○印をつけて下さい。
- (E)：器楽の指導は各人に対して毎週おこなっていますか、また隔週か、それ以上の間隔をあけておこなっていますか。

解 答 欄

|     | (A)            | (B) |      | (C)  | (D)  |      |    | (E) |    |      | (F) | (G) |    |     |  |
|-----|----------------|-----|------|------|------|------|----|-----|----|------|-----|-----|----|-----|--|
|     |                | 必修  | 選択必修 | 修了程度 | 個人指導 | 集団指導 | 兼用 | 毎週  | 隔週 | それ以上 | 目的  | 充分  | 普通 | 不十分 |  |
| (a) | バ イ エ ル        |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | ブルグミュラー        |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | ツェルニー 100      |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | ツェルニー 30       |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | ツェルニー 40       |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | ツェルニー 50       |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | メトードローズ        |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | ピアノA・B・C       |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | ラジェリティ         |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | リトルピアニスト       |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | ハノン(ピアノのテクニック) |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | そ の 他          |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
| (b) | ピアノ小曲集         |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | ソナチネアルバム       |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | ソナタアルバム        |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | そ の 他          |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
| (c) | マ ー チ 集        |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | 童謡曲集(歌曲集)      |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | 自主編曲教材         |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |
|     | そ の 他          |     |      |      |      |      |    |     |    |      |     |     |    |     |  |

(F)：ピアノの教育の目的は下記の何れですか。もっともあてはまると思われるもの2つに○印をつけて下さい。そして、さらに、符号を記入して下さい。

- (イ) 学生自身の常識、教養として必要
- (ロ) 学生自身の情操教育のために必要
- (ハ) 幼児の情操教育のために必要
- (ニ) 保育に関連する音楽の基礎技術として必要
- (ホ) 幼児集団をリードしていくために必要
- (ヘ) その他具体的に記入して下さい ( )

(G)：(F)の目的を達成していくために貴学の器楽教育は「充分」「普通」「不充分」の何れか、該当する欄に○印をして下さい。なお、「不充分」と答えた方は、その目的を果すために教材、単位数、認定するための修了程度を具体的に記入して下さい。

- 教材 ( )
- 単位数 ( )
- 修了程度 ( )

領域〔Ⅱ〕意識調査

質問 1

短大入学時にピアノの練習をしてきている（例えばバイエル終了程度）学生はどのような扱いをしていますか。該当する項目の数字を○で囲んで下さい。

- (1) 各人の能力に応じた楽曲を与えて練習させる。
- (2) 保育内容に関連した曲目（マーチ、童謡など）のみを与えて練習させる。
- (3) 入学時の進捗とその後の進捗状況を考慮して単位を認定し、その後は指導しない。
- (4) 各人の進捗に応じて練習曲のみを与えて練習させる。
- (5) 進捗に関係なく、同一教材（例えば具体的に記入\_\_\_\_\_）を与えて練習させる。
- (6) 最初にテストして単位を認定し、ほとんど指導はしない。

質問 2

音楽の基礎教育（ピアノ・声楽・音楽理論など）を保育内容（音楽リズム等）の音楽（保育に直接関係ある音楽）に直接結びつけるための指導をしていますか。該当する項目に○印をつけて下さい。

- (1) 指導しています。（その内容と学科目名を具体的に記入\_\_\_\_\_）
- (2) 指導していない。

但し、(1) 必要を認めない。

(2) 必要であるが実施していない。

質問 3

(a) 音楽の基礎教育（ピアノ・声楽・音楽理論など）を担当している教官と保育内容（音楽リズムなどを担当している教官とは、

- (1) 全く別人である。
- (2) 同一人が担当していることもある。
- (3) 全く同一人が担当している。

(b) 前の(a)で(1)に答えた方は音楽の基礎教育と保育内容の音楽とを直接関連づけるための

- (1) 話し合いをしている。



(2) 全く話し合いをしていない。

但し、(イ) 話し合いは必要である。

(ロ) 話し合う必要はない。

#### 質 問 4

幼児の教育をしていく場合に、それにたづさわる教師に対する音楽教育は必要であるが、現在（貴校でおこなっている）の音楽教育（基礎教育、保育内容など）で充分だと思いますか。他の教科との関連なども考慮した上で該当するものに○印して下さい。

(1) 教育内容、時間数とも大体充分である。

(2) 教育内容は充分で、時間数が足りない。

(3) 教育内容は不充分で、時間数は適切である。

(4) 教育内容、時間数とも不充分である。